

## PCB入りコンデンサの所在調査状況について

### <概要>

#### (事象の発生状況)

- ・ PCB入りコンデンサ 1 個が所在不明となっていることを、当社社員が確認しました。
- ・ その後の調査の結果、今回の定期検査において、さらに 16 個の PCB入りコンデンサが所在不明となっていることがわかりました。

#### (今後の対応)

- ・ 引き続き所在不明のコンデンサの調査を継続するとともに、過去に同様の事例がないか調査します。また、原因調査と対策の検討を実施してまいります。

#### (安全性・外部への影響)

- ・ 本事象による外部への放射能の影響はありません。
- ・ PCB入りコンデンサは密閉構造となっており、外部より強い衝撃が加わることなどが無い限り PCBが漏えいすることはありません。

#### (公表区分)

- ・ 本事象は公表区分その他ですが、透明性向上のためにお知らせするものです。詳細は以下のとおりです。

### 1. 事象の発生状況

平成 21 年 5 月 23 日、定期検査中の 2 号機の中央制御室に設置されている発電機保護継電器<sup>\*1</sup>の取り替え作業において、PCB<sup>\*2</sup>入りコンデンサ<sup>\*3</sup>を発電機保護継電器から取り外し、5 月 25 日に保管箱に仮置きしました。

7 月 7 日午後 5 時頃、当社社員が仮置きしていた当該コンデンサを発電所構内にある電気品置場に保管するために員数を確認したところ、3 個取り外してあるはずの PCB入りコンデンサのうち 1 個 (1971 年製、油量：約 10 ミリリットル) が所在不明となっていることを確認しました。

所在不明のコンデンサには、高濃度<sup>\*4</sup> PCBが含まれており、本来発電所構内で適切に管理する必要があること、また今回他の電気品と一緒に発電所構外に持ち出した可能性もあることから、所内外の関係箇所を探しております。

(平成 21 年 7 月 10 日お知らせ済み)

その後、2 号機において今回の定期検査で実施した同様の取り替え作業について調査したところ、7 月 13 日までに、高濃度 PCBが含まれたコンデンサ 16 個 (1971 年製、油量：合計約 390 ミリリットル) が所在不明となっていることがわかりました。

これまでのところ、発電所構内において運搬、保管された経路を調べ、所在の可能性のある場所を探したものの見つかっておりません。

新たに所在不明を確認した 16 個のコンデンサおよび先に所在不明を確認したもう 1 個のコンデンサについては、発電所構外の廃棄物処理業者も含め、引き続き関係箇所の調査を継続してまいります。

## 2. 今後の対応

引き続き所在不明のコンデンサ計 17 個の調査を継続し、また過去に実施した作業において、PCB入り機器が所在不明となった事例の有無について調査するとともに、原因調査と対策の検討を実施してまいります。

今後、8月末を目途に全体の調査や対策の検討を行い、その結果についてお知らせします。なお、環境に影響がある事案が確認された場合には速やかにお知らせします。

## 3. 安全性・外部への影響

所在不明のPCB入りコンデンサは管理区域内では使用されていないため放射性物質の付着はなく、本事象による外部への放射能の影響はありません。また、PCB入りコンデンサは密閉構造となっており、外部より強い衝撃が加わることなどがない限りPCBが漏えいすることはありません。

以 上

### \* 1 発電機保護継電器

発電機および発電機周辺に電氣的な不具合が生じた場合、発電機を安全に停止させるための保護装置。

### \* 2 PCB

ポリ塩化ビフェニルのことで、水に溶けず化学的に安定、絶縁性が良い、沸点が高いなどの性質を持つ、工業的に合成された化合物。かつては絶縁油として使用されたが、人体への毒性や環境への残留性が問題となり、1972年以降生産が中止されている。

### \* 3 コンデンサ

電気を蓄えたり放出したりする電子部品。

### \* 4 高濃度

PCBを絶縁油として使用したもので、コンデンサの場合、PCB濃度は100%であるものが多い。